

美術研究科グローバル・アート・プラクティス専攻

養成人材およびカリキュラム編成の方針

4つのビジョンに基づき、ビジョン実現に向けたカリキュラムを編成する。

- 1) グローバルな視野を手にいれる
- 2) 多様な異なる視座を手にいれる
- 3) 言説と手を並行して実践する
- 4) 協働の意義を学ぶ

本専攻は、国際経験が豊富な教員のもと、多国籍の学生が集まっている。言語・習慣・文化など個人的な背景が非常に多様である環境下で、互いの立場を尊重し、エンパシーの力を育て、アートを通して現代社会の様々な課題に果敢に取り組み人材の育成を目指している。

グローバルな視野を持ったカリキュラム展開を特徴とする。授業の基本言語は英語であり、海外との協働プログラムもカリキュラムの基軸を成す。また、オンラインも活用して世界を繋ぐ授業も積極的に展開している。さらに、海外協定校への交換留学や、海外美大との協働によるサマーコース参加も積極的に支援している。

留学生の割合が多いことによる多視点を活かして、本学カリキュラムの特徴の一つである古美術研究旅行を発展的に活用。「日本」を学ぶ視点にとどまらず、どんな時代においても、広く多様な「交流」が歴史や伝統を作ってきたことを学ぶことで、真にグローバルな視野の獲得を目指す。

求める入学者像

- ・今日の社会状況や互いの文化的背景を理解しながら、新しい芸術への発想、表現、態度、行動を生みだそうとする人。
- ・傍観者ではなく積極的にグローバルな時代を問いかけ、芸術をとおして多様な変化を志向する人。
- ・自らを守り拘束する言説や価値観を内破し、客観的に自己を見つめ芸術表現をめざす人。
- ・自由な地平から人間の在り方を問うグローバルな芸術実践に意欲のある人。
- ・様々な人や場所との出会いを通じて同時代性を認識し、そこから手応えとしてのイメージ（実体）を創り出そうとする人。
- ・アートを、世界の人に対していかに翻訳し、活用させるかを思考する人。
- ・グローバルな文脈でのアート活動に必要な言語、技術、視点を積極的に獲得しようと努力する人。

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「修了制作」を含めた所定の単位を修得した学生を修了と認め、修士の学位を授与する。

- ・「修了制作」の3つの形 1) 修了作品と修士論文 2) 修了作品とエッセイ 3) 修士論文
- ・作品制作だけではなく、必ず何らかの言語化の並走を必要とする

カリキュラム構成

修士1年次：1) GAP セミナーと GAP プラクティスの2つの系統の授業により、言説と手による実践の両面の基礎を作る。2) GAP フォーラム I,II として海外等で開催する協働プログラムへの参加を必須とする。3) アーティストとしてのコミュニケーションを英語で行うアート・コミュニケーションが必修である。

修士2年次：1) GAP フォーラム III, IV として所属する研究室教員の指導を受けつつ、各自の修了作品やエッセイ、論文作成に更に集中的に取り組む。2) 修了制作展での展示や発表を完遂する。

* 全在学期間を通じ、フォーラムとして互いの作品を批評し合う場への積極的参加が必修である。

* 主に海外から招かれた世界的アーティストによるワークショップやレクチャーがソーシャル・プラクティスとして随時開催される。

* 古美術研究旅行には修士2年次に希望者が参加可能で、古代から国際交流が日本の伝統という歴史を作ってきたことを学び、現在の国際交流が未来の伝統の創造の一部であることを考える。

教育目標

- ① グローバルな視野を手に入れる
- ② 多様な異なる視座を手に入れる
- ③ 言説と手を並行して実践する
- ④ 協働の意義を学ぶ